広報モニターの声

モニターのみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

議会だより 148号（前号）誌面、議会に対するご意見・ご感想

○横書きは右開き（議会だより・暮らしの便利帳）、縦書きは左開き（村報・はい！！中央病院・他）でファイリングがしにくい。縦書き横書きで読みにくいです。

○中学生議会について、担当の先生のお話にありましたが、中学生のみなさんが議会で質問するに至るまでの探究活動、その熱意と努力をおおいに称賛したいと思います。将来の村づくりのために、中学生のみなさんの視点や考えが非常に大切です。これからもぜひ、その情熱を持ち続けてほしいと思いました。

○今回の議会だよりは今までの中で一番よいと思います。我々のつたない意見や提案を形にいただいていることが誌面から理解できて感謝します。

・中学生議会 2024！から、疑問（質問）に対していねいにその場で回答してくれたこと。まだまだ遠い存在である行政を身近に感じることができたことなど、中学生議員の思いが誌面から受け取ることができました。良かったです。

○中学生のみなさんが、村に対する考えをしっかりと持っていることをとても嬉しく、たのしく思います。観光面をもっと充実させたいという思いが、とても伝わってきました。私もとても強く感じます。なにか特産品をという意見もありましたね。あるのでしょうか、村民にも知れわたっていないのでしょうか？南箕輪はあれか！というものがほしいですネ。

○今回は中学生議会が目をつけた。中学生議会は意義のある企画。各グループで探究活動をして、村を良くするための意見や鋭い質問に感心した。未来に希望がもてた。

○「村民の声を聴く会」の要望書にまとめた意見は4点だけなのではないでしょうか？他どのような意見が出ているのか知りたい。この方法が一番いいもの（村民の声を聴くための方法）なのか疑問。

回答 「村民の声を聴く会」で出された意見をどのように公表していくか、今後検討していきます。

○今回は、前回議会のおさらい議題を提示しているような議員も見受けられます。意図的なものではないでしょうか？もう少し違った形のフォローアップが必要では？と思います。

○「村民の声を聴く会」は参加者が各会場10人前後で、もっと多くの参加があれば良いかなと思います。参加者アンケートの中に「漠然としていて参加しづらい」とあり、デメリットの意見も積極的に掲載しているのは良いですが、何か対応策はあるのでしょうか。また、「村民の声をもとにした要望書」の発行が12月となっています。「村民の声を聴く会」最終日の8月17日からおよそ4か月が経過しています。もう少し早く発行することはできないのでしょうか。要望書に対する結果は、どのような流れでいつわかるのでしょうか。

回答 参加者アンケートの意見を参考に、より多くの村民に参加していただけるよう検討します。要望書は、みなさんから寄せられた多くの要望の中から委員長会においてより重要だと思われるものを抜粋し、その後全議員で検討を重ねた経緯があり、提出まで

に時間を要しました。今後は極力早く提出できるように工夫いたします。また、要望書に対しては、村にその実施や回答の義務はないため、内容によっては時間をかけて議会として注視していく対応となります。

○選挙の投票率が上伊那で一番低いのには驚きました。課題が多い現代、若者に政治に関心を持ってもらうような学習会等必要なのでは。

回答 中学生議事前学習会（議会だより No147 に掲載）を毎年行っており、R7年1月に実施した若者議会（議会だより No148 に掲載）も、若い世代に村政や議会を知ってもらう機会となりました。

村に対するご意見

●P9の「AIを用いた信号機」の設置について…「導入はまだ先」とありますが村がモデル地区となり、県公安とタイアップして信号機による交通渋滞の解消に役立ててはいかがですか。

●持続可能な自治会の取り組みの試みとして、村は、1) 広報配布、2) 不燃・資源ごみ収集立ち合い等の外部委託を進めています。これは、区民の負担軽減を目的とした施策かと思われれます。これに対し「楽になった」という声がある一方で、区民、組メンバーの中には「声掛けがなくなり、つながりも希薄になり淋しくなった」という声が出ております。これは、南箕輪の都会化・孤立化を招き、『世代を超えて育む本来の持続可能な村づくり、つながりのあるコミュニティ形成』の理念からかけ離れた村へ変容させかねないという懸念は拭えません。やはり持続可能な自治会とは「何か？」を明確にして、そのビジョンに沿った「ぶれない」「日和らない」持続可能な自治会づくりを進めてもらいたいと思います。声掛け、つながり、絆はコミュニティ（自治会）の欠かせない要素であると思います。

●中学生議会での発言および「南みのわ村〇〇したい」という探究活動のレポートを拝見すると、我々が忘れかけていた「南箕輪村の豊かな自然、豊かな暮らし」に、中学生が深い思いを持っていることが伺える。こういった若者の思いに寄り添った村づくりをしていくべきと考えます。

●村への要望書〔南信工科短大の補助金等〕について、村民に対しての補助金等の要望書は賛同いたします。できれば、卒業後に村に残ること(居住地が村であること)を条件に付け加えることも考えてはいかがでしょうか。なお、卒業後に地元へ就職しているとのことですが、地元とは村、上伊那など具体的にはどこでしょうか。村に居住してくれる方の割合が分かれば教えていただければと思います。

●図書館の果たす役割は大きいと思いますが、現在の図書館は狭いし蔵書も見直す時期に来ていると思います。村民のみなさんにどのような本を読みたいか、というような声を聞いてみたらいかがでしょうか。

●運転免許証の返納者への村の補助という点は、助成を利用できる人の範囲と額を拡大していくということで、大きなメリットがあると思います。ぜひR8年より実施できるように取り組んでください。

●不登校児童への対応は十分と思っているのか？要因は勝手に想像して分析しているものではないか？実際に不登校児童をもっているが、アンケートを取られたことは無い。

- 子どもたちの活動スペースがない。今、実際に箕輪・伊那へ行き運動や勉強をしている（みのわベース、公民館など）。体育館も高い。教育長「理解を」と書いてあるが理解できない。理由を知りたい。
- モニターの中にもマイナ保険証に反対の人がいると知り、驚きでした。村としての啓もうや、スマホを持っていない人へのフォローが、まだまだ不十分なのではないでしょうか。せっかく県下一若い村を特徴としているなら、デジタル化の進んだスマートな行政体制（高齢者への親切なフォローも含めて）を目指せば、また、それが1つ村としてのアピールにもなるような気がします。マイナ保険証が後戻りするかといえば、絶対にNGだと思うので。
- 墓地公園造成計画とありますが、お墓の維持管理が継続できない、無縁墓地になりかねない昨今、村としてこれからの墓地のあり方について今後どのように計画していくか、再度審議して進めてほしいところです。
- 教育委員会事務局、学校教育係（こども館）、社会教育係（村民センター）、活動推進員（公民館）と3か所に分かれており、諸運営・連絡がスムーズに機能しないのではと危惧します。図書館は31年となりだいぶ手狭となっていることから、それらも考慮した長いスパンでのインフラ整備が必要かと思えます。
- 福祉教育常任委員会で提出された、「障がい者等の大芝の湯家族風呂利用に対する補助を求める要望書」は、細やかに障がい者に寄り添うありがたい要望だと思う。せっかく作られた家族風呂が躊躇なく、多くの人に利用されるよう願います。